

2024年4月15日

Press Release

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりのはらっぱ」 [メイン企画]

蜷川実花展 with EiM : <sup>はかな</sup> 儂 <sup>きら</sup> くも煌めく境界

NINAGAWA Mika with EiM: Where Humanity Meets Nature

会期：2024年4月6日（土）－2024年9月1日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）



本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd



本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd

弘前れんが倉庫美術館では、2024年4月6日（土）から9月1日（日）まで、写真家・映画監督の蜷川実花（にながわ みか）とクリエイティブ チーム・EiM（エイム）との協働による大規模な個展を開催します。本展は、当館を含む青森県内5つの美術館・アートセンターを中心に行われる「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」[会期：2024年4月13日（土）－9月1日（日）]のメイン企画の一つです。

日本を代表する写真家・映画監督として、精力的に活動する蜷川は、近年は個人の活動と並行し、異なる分野の作り手や研究者が作品に応じて有機的に集まるクリエイティブチーム・EiMとしての制作も展開しています。同チームのメンバーであるデータサイエンティストの宮田裕章（みやた ひろあき）、セットデザイナーのEnzo（エンゾ）、クリエイティブディレクターの桑名功（くわな いさお）らとの協働によって、鑑賞者が空間の内部をさまよい、自らが作品の一部となって体感するインスタレーションをはじめとした自身の作品の可能性を切り拓いています。

本展では、EiMとともに作りあげるインスタレーション作品のほか、蜷川が弘前で撮影した桜をはじめとした、日本各地の花々を捉えた作品を紹介します。さらに、過去の代表シリーズも、近年の蜷川作品とのつながりを示す新たな時間軸で提示します。蜷川は、活動の初期から、花を重要なモチーフとして継続的に撮り続けてきました。なかでも蜷川が惹かれるのは、原生林のような野に咲く花ではなく、人間の手によって育てられ、人間と共存する花々です。特に近年は近所の公園から全国各地の花の名所まで、国内での撮影を集中的に行なっています。そうした撮影の旅の中で、蜷川は弘前の桜に出会います。本展では、弘前で撮影した桜を展示のクライマックスとしてご紹介します。

展覧会を通じて、人間と自然とが築いてきた関係性を浮かび上がらせ、それぞれが住まう土地の自然やその背景にある文化、歴史を新たな視点から捉え直す機会となることを目指します。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

## 展覧会のみどころ

### 1. 弘前の桜を撮影した新作写真を紹介

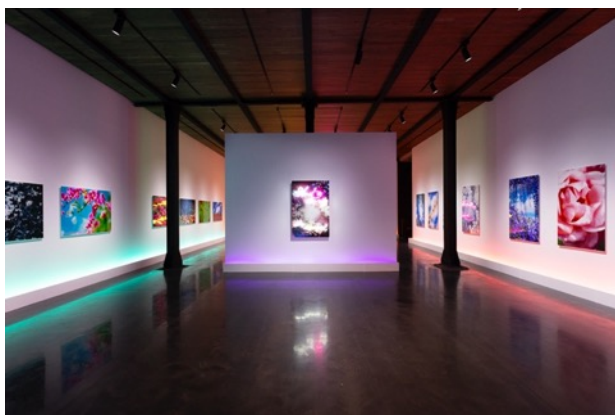
弘前には、国内に現存する最古級のソメイヨシノをはじめとした約2,600本の桜の木を擁する弘前公園があります。毎年春には、「弘前さくらまつり」が開催される桜の名所です。蜷川は2022年より、桜の開花に合わせて弘前を訪れ、継続的に撮影を行なっています。これまでさまざまな花を撮影してきた蜷川は、花の中でも桜をとりわけ特別な存在だと語ります。蜷川が感じる桜の魅力とは、短い間に姿を変える儂さであり、本展でご紹介する弘前の桜を撮影した作品群にも、刻一刻と変化する桜の一瞬の姿が収められています。

### 2. 建築空間と共鳴するダイナミックなインスタレーション

黒いコーラル壁を備えた、当館で最も大きな高さ15m・約300㎡の吹き抜けの展示室には、蜷川がEiMとともに作り上げる大型作品《残照》と映像が組み合わされた新作インスタレーションが出現します。《残照》は、生命力をたたえて咲き誇る花々と、枯れて散りゆく花々がひとつの生命体のように融合した立体作品です。美と儂さ、一時性と永遠性といった、相反する要素が共存するように構成された作品は、鑑賞する角度によってその表情が大きく異なります。明治・大正期に日本酒の酒造工場として建設された、歴史ある煉瓦倉庫の空間と共鳴する蜷川作品の魅力を感じていただく機会となるでしょう。

### 3. 「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」メイン企画としての展示構成

本展は、当館を含む青森県内5つの美術館、アートセンターが連携して開催する「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」のメイン企画の一つとして開催します。今年度のアートフェスのテーマ「つらなりのはらっぱ」は、訪れては去っていく人間、動物、植物などの訪問者たちが関係する境界上に位置し、日々思い思いの活動が繰り広げられる場を目指すものです。本展はこのテーマに応える形で、人間と自然の境界が揺らぎ、光を受けながら、あらたな共存の可能性を探るような展示となることを目指します。



本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd



本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd

## 作家プロフィール

### 蜷川実花 NINAGAWA Mika

写真家、映画監督。写真を中心として、映画、映像、空間インスタレーションも多く手掛ける。クリエイティブチーム・EiM [Eternity in a Moment] の一員としても活動している。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010年Rizzoli N.Y. から写真集を出版。『ヘルタースケルター』（2012年）、『Diner ダイナー』（2019年）はじめ長編映画を5作、Netflixオリジナルドラマ『FOLLOWERS』を監督。最新写真集に『花、瞬く光』。主な個展に、「蜷川実花展」（台北現代美術館、2016年）、「蜷川実花展—虚構と現実の間に—」（国内美術館を巡回、2018年-2021年）、「MIKA NINAGAWA INTO FICTION / REALITY」（北京時代美術館、2022年）、「蜷川実花 瞬く光の庭」（東京都庭園美術館、2022年）、「蜷川実花展 Eternity in a Moment 輝きの中の永遠」（TOKYO NODE、2023年-2024年）などがある。



### EiM [Eternity in a Moment]

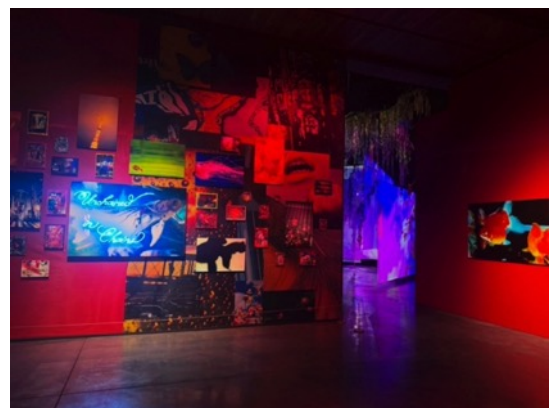
写真家・映画監督の蜷川実花と、データサイエンティストの宮田裕章、セットデザイナーのEnzo、クリエイティブディレクターの桑名功らで結成されたクリエイティブチーム。プロジェクトごとに多様なチームを編成しながら活動する。主な作品発表に、「胡蝶の旅 Embracing Lights」（安比Art Project、2022年）、蜷川実花「残照 / Eternity in a Moment」（小山登美夫ギャラリー前橋、2023年）、「蜷川実花展 Eternity in a Moment 輝きの中の永遠」（TOKYO NODE、2023年-2024年）など。



蜷川実花《花、瞬く光》2022年  
©mika ninagawa,  
Courtesy of Tomio Koyama Gallery



蜷川実花《Untitled》2023年  
©mika ninagawa,  
Courtesy of Tomio Koyama Gallery



本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd



## 関連プログラム

### オープニングトーク

展覧会のオープニングに際し、出展作家の蜷川実花氏のアーティストトークを開催します。  
弘前での撮影時のエピソードや、本展への思いなどについてお話しいたします。

出演 | 蜷川実花 聞き手：木村絵理子（弘前れんが倉庫美術館）  
日時 | 2024年4月6日（土）14：00-15：30（受付開始13：30）  
会場 | 展示室内  
料金 | 無料（要観覧券）  
定員 | 50名  
※本プログラムは終了しました

### 学芸スタッフによる解説ツアー

当館学芸スタッフが一緒に館内を巡りながら展覧会の見どころを紹介します。

日程 | 2024年4月28日（日）、5月19日（日）、6月30日（日）、7月28日（日）  
時間 | 11：00-11：30  
料金 | 無料（要観覧券）  
定員 | 10名  
申込み | 不要  
集合場所 | 1階 展示室入口（開始5分前までにお越しください）

### H-MOCA ライブ

#### 蜷川実花監督作『さくらん』上映会

蜷川氏の映画初監督作品『さくらん』の上映会を開催します。

日時 | 2024年7月20日（土）14：00-17：30-  
2024年7月21日（日）14：00-  
会場 | スタジオ B  
料金 | 1,200円（当日観覧券提示で200円引き）  
定員 | 各回30名  
申込み | 事前予約優先・先着順  
WEB（Peatix）<https://20240720-21movie.peatix.com/> 電話 0172-32-8950  
※予約サイト公開・申し込み受付開始 | 2024年6月1日（土）10：00-



© 2007 蜷川組「さくらん」フィルム・コミッティ  
© 安野モヨコ/講談社

[作品情報] 2006年製作/111分/PG12/日本/配給：アスミック・エース  
※12歳未満の方の鑑賞には、保護者の助言や指導が必要です

## その他のプログラム

### 建築ガイドツアー

館内を巡りながら建物の歴史や見どころについて当館スタッフが解説します。

日程 | 2024年4月20日（土）、5月18日（土）、6月15日（土）、7月20日（土）、8月17日（土）  
時間 | 11：00-11：30  
料金 | 無料  
定員 | 10名程度  
申込み | 不要  
集合場所 | 1階受付前（開始5分前までにお越しください）

## 開催概要

- | 展覧会名 (日) : 蜷川実花展 with EiM : 儚<sup>はかな</sup>くも煌<sup>きら</sup>めく境界  
※日本語のみで紹介いただく場合は、英語の副題の併記をお願いします  
「蜷川実花展 with EiM : 儚<sup>はかな</sup>くも煌<sup>きら</sup>めく境界 Where Humanity Meets Nature」
- | 展覧会名 (英) : NINAGAWA Mika with EiM: Where Humanity Meets Nature
- | 会期 : 2024年4月6日(土) - 2024年9月1日(日)
- | 会場 : 弘前れんが倉庫美術館 (青森県弘前市吉野町2-1)
- | 開館時間 : 9:00 - 17:00 (入館は閉館の30分前まで)
- | 休館日 : 火曜日  
※ただし2024年4月23日(火)、4月30日(火)、8月6日(火)は開館
- | 観覧料 [税込] : 一般 1,500円 (1,400円) 大学生・専門学校生 1,000円 (900円)  
高校生以下 無料  
※( )内は20名様以上の団体料金  
※弘前市民は当日料金から500円引き (他の割引との併用不可)  
※その他以下の方は無料  
弘前市内の留学生の方 / 満65歳以上の弘前市民の方 / ひろさき多子家族応援パスポート  
をご持参の方 / 障がいのある方と付添の方1名
- | 主催 : 弘前れんが倉庫美術館
- | 協力 : ラッキースター、小山登美夫ギャラリー
- | 特別協賛 : 牧寛之 (株式会社バッファロー 代表取締役社長)、  
スターツコーポレーション株式会社
- | 協賛 : 株式会社大林組、株式会社NTTファシリティーズ
- | 後援 : 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、  
青森朝日放送、エフエム青森、FMアップルウェーブ、弘前市教育委員会
- | 一般問合せ : TEL 0172-32-8950
- | アクセス : JR 弘前駅より  
- 弘南バス・土手町循環 100円バス「中土手町」下車 徒歩 約4分  
- 徒歩 約20分  
- タクシー 約7分
- | ウェブサイト : <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS : Instagram : @hirosaki\_moca  
X : @hirosaki\_moca  
Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: [press@hirosaki-moca.jp](mailto:press@hirosaki-moca.jp) 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

## AOMORI GOKAN アートフェス 2024

青森県の5つの美術館・アートセンター（青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館）では、2024年4月13日（土）から9月1日（日）まで「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」を開催します。「つらなりのはらっぱ」を共通のテーマに、展覧会、イベントなどさまざまなプログラムが各館で展開されます。

本アートフェスのメイン企画として、当館では「蜷川実花展 with EiM：儚くも煌めく境界」及び弘前エクステンジ#06「白神覗見考」を開催いたします。

タイトル：AOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのはらっぱ」

会期：2024年4月13日（土）－9月1日（日）

会場：青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館

アートフェス公式 WEB サイト：<https://aomori-artsfest.com/>



## 美術館について

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正時代に酒造工場として建設された煉瓦造の建物を「記憶の継承」をコンセプトに改修し、2020年に開館した現代美術館です。黒いコールトールの展示壁や高さ15mの吹き抜けなど空間の特性を生かした現代アートの展覧会を開催しています。奈良美智、ジャン＝ミシェル・オトニエルをはじめ国内外のアーティストのコレクション作品を展示するほか、ライブラリーや貸出スタジオを備えています。また、シールド工房を併設したカフェ、ミュージアムショップが隣接しています。



©Naoya Hatakeyama

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: [press@hirosaki-moca.jp](mailto:press@hirosaki-moca.jp) 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

2024年4月15日

弘前れんが倉庫美術館 E-MAIL: [press@hirosaki-moca.jp](mailto:press@hirosaki-moca.jp) / FAX: 0172-55-5982 宛

AOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのはらっぱ」メイン企画

「蜷川実花展 with EiM：<sup>はかな</sup>も<sup>きら</sup>煌めく境界 Where Humanity Meets Nature」

広報画像申請書

会期：2024年4月6日（土）－9月1日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館

▼貴媒体についてお知らせください

媒体名	貴社名				
ご担当者名	所属部署				
ご住所 〒					
TEL	FAX	E-MAIL			
掲載・放映予定日	月	日	<input type="checkbox"/> 読者プレゼント（招待券）を希望する	組	名様（2024年8月末迄掲載対象）

\*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。/美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼ご希望画像の番号に○印をつけてください。ご使用の際は所定のキャプション・クレジットの記載をお願いします。

広報画像 キャプション・クレジット

- 本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd
- 本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd
- 本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd
- 本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd
- 本展会場風景 ©Lucky Star Co.,Ltd
- 蜷川実花《花、瞬く光》2022年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 蜷川実花《Untitled》2023年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 蜷川実花《Liquid Dreams》2003年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- ※蜷川実花氏のポートレートです。クレジットの記載は不要です

▼広報画像の掲載について

- ・広報画像の使用は展覧会をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- ・広報画像をご掲載いただく場合、所定のキャプション・クレジットを必ず記載してください。
- ・全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせはご遠慮ください。
- ・掲載記事、番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までメールまたはFAXでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：[press@hirosaki-moca.jp](mailto:press@hirosaki-moca.jp) 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

▼広報画像一覧

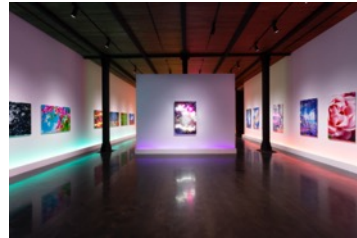
1



2



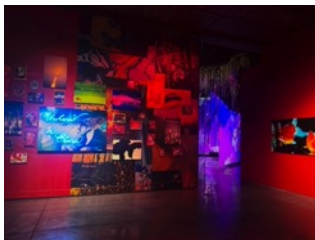
3



4



5



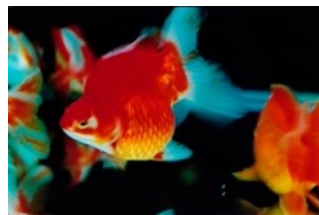
6



7



8



9

